

祇園祭

宵山・巡行ガイド'04

発行 / 祇園祭宵山会議

京都府、京都市、八坂神社、祇園祭協賛会、
祇園祭山鉾連合会、京都市観光協会、
京都市交通局、京阪電気鉄道、阪急電鉄、
京都市文化観光資源保護財団

事務局 / 京都市産業観光局観光部観光振興課



**山鉾建ての位置
山鉾巡行コース**

→ 7月17日 山鉾巡行コース
○数字は巡行順

■ 祇園祭2004

| | |
|---------------------|-----------------------|
| 7月14日(水) ~16日(金) | 宵山(祇園囃子) |
| 7月17日(土) | 山鉾巡行(午前9時四条烏丸) |
| 7月17日(土) | 神幸祭 神輿渡御(午後6時八坂神社発輿) |
| 7月24日(土) | 花傘巡行(午前10時八坂神社) |
| 7月24日(土) | 還幸祭 神輿渡御(午後5時四条御旅所発輿) |

■ 山鉾巡行(17日)の主要地点における予想通過時間

| 場所 | 山鉾 | 長刀鉾 | 船鉾 | 南観音山 |
|----------|----|-------|-------|-------|
| 四条烏丸(発) | | 9:00 | 10:15 | 11:00 |
| | | ↓ | ↓ | ↓ |
| 四条河原町(着) | | 9:40 | 10:55 | 11:40 |
| | | ↓ | ↓ | ↓ |
| 河原町御池(着) | | 10:35 | 11:45 | 12:30 |
| | | ↓ | ↓ | ↓ |
| 新町御池(着) | | 11:25 | 12:30 | 13:15 |

知っておくと祇園祭が更に楽しめる

平成十六年七月二日の「くじ取り式」で今年の巡行の順番が決まりました。

長刀鉾

なぎなたほこ ①



古来くじ取らずで巡行の先頭を務める。巡行の日、山鉾中唯「生稚児(いさちご)が乗り込み、四条辻屋町に張られたしめ縄を太刀で切り、巡行の幕を切つて落とす。鉾頭に宗近作の長刀(現在は複製)を付け、邪気を払って進行する。

函谷鉾

かんごほこ ⑤



鉾の名は、中国戦国時代斉の孟嘗君が、家来の鶏の鳴き真似によって函谷関を開けさせ、秦国脱出を成功させた故事による。鉾頭の月と山形は山中の闇をあらわし、真木なかほどの天王人形は孟嘗君、その下には雌雄対の金色の鶏を備える。

月鉾

つきほこ ⑨



鉾頭に三日月型を付け、真木のなかほどには月読尊(つきよみのみこと)を祀る。破風、軒桁、四本柱の飾金具は大鎧屋勘右衛門門の腕がふるわれ、屋根裏の「金地彩色草木図」は円山応挙の筆、その豪華さは筆舌に尽くしがたい。

菊水鉾

きくすいほこ ⑬



町内に古くからあった「菊水の井戸」にちなんで名付けられ、鉾頭には金色の菊花をつける。元治元年(一八六四)のどんでん焼けて焼失したが昭和二十七年、八八年ぶりに再建。懸装品は三輪兎勢・山鹿清華・皆川月華などによって新調された。

太子山

たいしやま ②



聖徳太子を祀る。太子が四天王寺建立の際に山中に入つて良質の杉を求めた伝説によっている。それゆえこの山は真松に替わり杉が使われている。角唐掛金具は飛龍をかたどり、前掛の「阿房宮図」は泰の始皇帝を刺繍で描いている。

螭螂山

とうろうやま ⑥



かまきりの鎌と羽と首と、御所車の車輪が動く唯一のからくり山。中国梁の時代の詩文集「文選」にある「螭螂の斧を以て陸軍のわだちをふせがんと欲す」ということばにより、御所車にかまきりに乗せている。見送等は山鉾切の友禅染。

油天神山

あぶらてんじんやま ⑩



町内の風早家に祀られていた天神像を勧請。山には朱塗りの社殿に天神像を安置。学業成就のお守りと絵馬が出される。平成に入り、梅原龍二郎原画の見送「朝陽図」綴織を、また近年、前田青邨原画の胴掛「紅白梅」を両面新調した。

郭巨山

かつぎやま ⑭



貧困のため母に孝養を尽くせない郭巨が、わが子を山に捨てようとするところを金の釜を掘りあてたという、故事にちなむ。日置陣子の屋根と欄下の乳隠しという飾り板が珍しい。胴掛は上村松篁筆の花鳥図と寛政年間の龍虎図など。

伯牙山

はくがやま ③



琴の名人伯牙が自分の琴の理解者、鍾子期の死を嘆き、琴の絃を断つたという「知音」の故事を趣向にした山。仙人遊楽図を織り出した前掛「慶寿製」は中国明代の作。その他、水引、胴掛、見送・金具の図柄はすべて中国風に統一。

綾傘鉾

あやがさほこ ⑦



山鉾の古い形態を残す。六人の稚児も巡行参加。二つの大傘を持ち、ひとつは染物(森口華弘作)と織物の吊りを付けた傘上に織物の神体と金幣を飾る。赤帯を付け棒を持った者と太鼓とばちの鬼面の者が、鉦と笛に合わせ踊る様子を「獅子舞」。

山伏山

やまぶしやま ⑪



ご神体の山伏は、八坂塔が傾いたときに法力でもってなおしたという浄蔵所傳で、大降入りの姿をあらわしている。前掛と胴掛の中央に飾り房がついているのが特徴的。綱を紡ぎ布を織り上げたまでの行程を描いた綴織は珍しい。

四糸傘鉾

しじょうかさほこ ⑮



巡行記録が応仁の乱以前という古い由緒ながら、明治五年以降休山となる。昭和六〇年本体が再建され、六三年には踊りと獅子が再現され二七年ぶりに巡行に参加。鉾は直径二・四四mの傘で、赤帯と若松や「麗光鳳舞」の二の垂りをつける。

孟宗山

もうそうやま ④



病身の母親のために筍を供したい孟宗が、雪の中で筍を掘り当てたという中国の故事を題材にした山。別名「筍山」と呼ばれる。竹内栖鳳が喜寿に筆をこた墨絵の見送には栖鳳の師である幸野樸下絵の見送金具が付けられている。

木賊山

とくさやま ⑧



世阿弥の謡曲「木賊」をもとに、我が子をさらわれた翁が、独り信濃国伏屋の里で木賊を刈る様をあらわしている。ご神体は桃山時代の秀作で、元禄五年の黒書鉾がみられる。前掛、唐人市場交易図と見送「鳳凰牡丹図」の綴織は名品。

占出山

うらでやま ⑫



神功皇后が肥前国松浦川で鮎を釣って、戦勝の兆しとしたという故事によっている。身重であった皇后は凱旋後に無事出産。その縁で安産のお守りと腹帯授与がある。懸装品はひとときわ華麗で、前掛と胴掛は日本三景を描いている。

芦刈山

あしかりやま ⑯



謡曲「芦刈」に基づく。故あって妻と離れて難波の浦で芦を刈る老翁がやがて妻との再会をはたす夫婦和合の物語。天文六二(一五三三)年康運作の銘がある御神体や天正の銘がある山鉾最古の御神体衣装重文を載している。

今年の巡行順序

- ① 長刀鉾
- ↓
- ② 太子山
- ↓
- ③ 伯牙山
- ↓
- ④ 孟宗山
- ↓
- ⑤ 函谷鉾
- ↓
- ⑥ 蟻螂山
- ↓
- ⑦ 綾傘鉾
- ↓
- ⑧ 木賊山
- ↓
- ⑨ 月鉾
- ↓
- ⑩ 油天神山
- ↓
- ⑪ 山伏山
- ↓
- ⑫ 占出山
- ↓
- ⑬ 菊水鉾
- ↓
- ⑭ 郭巨山
- ↓
- ⑮ 四条傘鉾
- ↓
- ⑯ 芦刈山
- ↓
- ⑰ 鶏鉾
- ↓
- ⑱ 霞天神山
- ↓
- ⑲ 白楽天山
- ↓
- ⑳ 保昌山
- ↓
- ㉑ 放下鉾
- ↓
- ㉒ 岩戸山
- ↓
- ㉓ 船鉾
- ↓
- ㉔ 北観音山
- ↓
- ㉕ 橋弁慶山
- ↓
- ㉖ 黒主山
- ↓
- ㉗ 浄妙山
- ↓
- ㉘ 鯉山
- ↓
- ㉙ 役行者山
- ↓
- ㉚ 八幡山
- ↓
- ㉛ 鈴鹿山
- ↓
- ㉜ 南観音山



室町通三条上ル役行者町

役行者山

修験道の祖である役行者が一言主神を使って葛城と大峰のあいだに石橋をかけたという話による。山の中央に役行者が座し、左に一言主神、右に葛城神が立つ。水引は江戸中期の綴錦の名人西山勘七による「唐子嬉遊図」。

えんのぎょうじやま 29



蛸薬師通室町東入ル橋弁慶町

橋弁慶山

謡曲「橋弁慶」をもとに、弁慶と牛若丸が五条大橋で戦う様子をあらわしている。人形には永禄六(一五六三)年の銘が記されている。前掛は寛岡鉄斎の原画「椿石雲馬図」、胴掛の「賀茂祭行列図」は円山応挙の「下絵」と伝わる。

はしべんけいやま 25



新町通四条上ル小結棚町

放下鉾

町角で芸を披露しながら仏法を説く放下僧を記る鉾。鉾頭は日、月、星三光が下界を照らす形をしている。三光丸という名の人形は、巡行の際に稚児舞を披露。下水引は、華嚴宗祖師絵伝を下絵にした綴錦。

ほうかほこ 21



室町通四条下ル鶏鉾町

鶏鉾

中国堯の時代は天下がよく治まり訴訟用の太鼓も用がなく鶏が巣を作ったという故事にちなんだ鉾。円山応挙やその一派である四条派による水引と、叙事詩「イリアス」の場面を描くベルギー製毛織物の見送(重要文化財)は圧巻。

にわとりほこ 17



新町通三条下ル三条町

八幡山

山の上には八幡宮を勧請。総金箔の小祠は天明年間に製作され、欄縁の彫金「飛鶴」は天保の工芸家河原林秀興の秀作。朱塗りの鳥居の笠木に向かい合う白鳩は左甚五郎の本影りと伝わる。また海北友雪畫の「祇園祭礼図屏風」を公開。

はちまんやま 30



室町通三条下ル烏帽子屋町

黒主山

謡曲「志賀」により、歌人大伴黒主が桜花を仰ぎ見ている姿をあらわしている。ご神体は寛政元年の作。前掛は中国の雲龍文綴錦で、六世紀の織物。欄縁の金具は桜、椿、菊などが透かし彫られている。粽に添えた桜は摩除けとなる。

くろぬしやま 26



新町通高辻上ル岩戸山町

岩戸山

日本神話の「天の岩戸」と「国生み」を色濃くあらわした曳山。天照大神、手力男尊、そして屋根の上に伊弉諾尊と、三体のご神体が祀られる。巡行時には「くじ取らず」で、二番目を行くと。鳥居には長嶋鳥「鶏」がとまる。

いわとやま 22



錦小路通室町西入ル天神山町

霞天神山

京の町に大火があった際に、霞が降り鎮火した。その時、一寸二分(約三・六cm)の天神像が降ってきた。それを祀つたのが起り。胴掛は上村松篁氏原画の「金鶏山」に加えて、これと対をなす芸術院会員上村淳之氏の「銀鶏図」が新しく完成した。

あられてんじんやま 18



烏丸通三条上ル場之町

鈴鹿山

伊勢国鈴鹿山中で人々を苦しめた悪鬼を退治した鈴鹿権現、瀬織津姫命のご神体。二面あるうちの享保三年作の神面を磨けると、神々しくも美しく、毅然とした顔で、心ある人々は感動と感謝を覚え思わず拝礼せずにはいられない。

すずかやま 31



六角通烏丸西入ル骨屋町

浄妙山

宇治川合戦で、三井寺の僧兵簡井浄妙と来法師の奮戦ぶりをあらわしている。胴掛の絨毯「エジプト風景」やピロイド織「仙人等棋書画」が有名。長谷川等伯原画の「柳橋水車図」「柳橋図」は綴錦織。「黒威威胴丸」錯は国指定重要文化財。

じょうみょうやま 27



新町通綾小路下ル船鉾町

船鉾

鉾全体が船の形をしていて、船先には金色の鶴(げき)、船尾には螺鈿細工で飛龍の舵がついている。鉾の上には神功皇后と、皇后を守る磯良、住吉、鹿島の三神像が安置される。ご神体に巻かれたさらしは、腹帯として授けられる。

ふねほこ 23



室町通綾小路下ル白楽天山町

白楽天山

唐の詩人白楽天が道林禅師に問答する場面を表現。白楽天山「仏法の大意は禅師「悪い事はせず善い事をすること」「白楽天山それは三歳の子でも知っている。神は「しかし八十歳の翁でも行い難い」。白楽天山は禅師の徳に服した。前掛はベルギー製。

はくらくてんやま 19



新町通蛸薬師下ル百足屋町

南観音山

楊柳観音像と脇侍の善財童子像を記る曳山。真松の枝には尾長鳥がとまる。巡行時には柳の大枝を山の後部から垂らす。見送は加山又造の原画による「龍王渡海図」。異無須織ベルシア綴通は国際的に通じた名品。

みなみかんのんやま 32



室町通六角下ル鯉山町

鯉山

中国龍門の滝を上る鯉の姿をあらわしている。滝を上つた鯉は龍になるという伝説から立身出世の山。躍動的な鯉の彫像は左甚五郎作。前掛、胴掛、水引、見送はホメノの叙事詩「イリアス」の名場面を描いた六世紀の毛織織。

こいやま 28



新町通六角下ル六角町

北観音山

楊柳観音座像と韋駄天立像を安置する曳山。真松には鳩がとまっている。前掛、胴掛、後掛はベルシア絨毯。見送の「鳳凰日輪額唐子嬉遊図」綴錦は七世紀末の中国明末清初の名品。巡行時には見送の横から大きな柳の枝をさし出している。

きたかんのんやま 24



東洞院通松原上ル燈籠町

保昌山

和泉式部に恋をした平井保昌が、御所紫宸殿の梅を手折ってきた姿をあらわしている。そのため明治期まで「花盗人山」と呼ばれていた。恋が成就したと語り、御札・縁は縁結びの御利益がある。前掛と胴掛は円山応挙の下絵による。

ほうしょうやま 20

◆ 祇園祭の起源

日本三大祭のひとつ祇園祭は、約1100年の伝統を誇る八坂神社の祭礼です。貞観11年(869)、京の都をはじめ日本全国に疫病が流行したとき、「これは祇園牛頭(ごず)天王の祟りである」として、二条城の南にあっ

た広大な庭園・神泉苑に、当時の国の数(66ヶ国)にちなんで66本の鉾を立て、祇園の神を祭り、さらに神輿を送って、病魔退散を祈願したことにはじまるといわれています。

◆ 祇園祭の楽しみ



祇園囃子

祇園囃子

「コンチキチン」で知られる祇園囃子は、能楽の影響を受けて、室町時代末期にはじまり、江戸時代になって、現在の優雅で洗練されたものになったといわれています。鉦、太鼓、笛の三種類の楽器が使われ、曲目は、各山鉾で30曲近くあるといわれています。7月に入ると本番に向けてあちこちで本格的な練習が始められ、お祭りが盛り上がります。

ちまき

八坂神社や各山鉾町で授与されている「ちまき」。このちまきは食べるちまきとは違い、厄除け、災難除けのお守りとして持ち帰り、翌年の祇園祭まで家の門口に吊るして厄を祓います。各山鉾町では御利益は違うものの、それぞれのちまきを見比べるのも楽しみです。ちまきは、夏越の祓いの神事である「茅の輪」が原型だともいわれています。



ちまき

屏風祭

屏風祭ともいわれる祇園祭。宵山には、各山鉾の古くからの町家が家を開放し、代々伝わる屏風などの美術工芸品を一般に公開します。普段は見られない京都の奥の深さを窺い知ることができます。

山鉾巡行

● くじ改め

巡行の最初の見せ場となる「くじ改め」。7月2日の「くじ取り式」で決まった巡行順が守られているかを、奉行(市長)にくじ札を渡すことで確認してもらう儀式です。くじ札の渡し方が見所です。

● 辻まわし

巡行で最もダイナミックな「辻まわし」は、鉾の方向転換のために行われます。車輪の下に割り竹や板を敷き、水を掛け、その上を滑らせます。掛け声に合わせて動く様は壮観です。

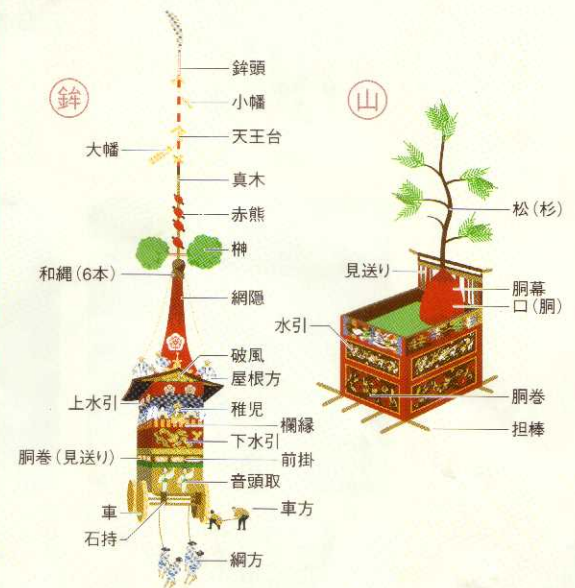
● しめ縄切り

長刀鉾稚児の重要な務めのひとつ、「しめ縄切り」。巡行日、四条鉾屋町に張られた神域の境界をあらわすしめ縄を鉾上の稚児が太刀で切り落して神域へ進むというものです。



辻まわし

鉾と山の構造



- 鉾** 重量/4.8トン~12トン
高さ/地上から鉾頭迄約25m・地上から屋根まで約8m
車輪/直径2m前後
鉾屋根/長さ4.5m・巾約3.5m
石持/長さ約6m余
鉾床面積/4畳半~6畳
綱方/鉾の巡行に当たり綱を曳く役30人~50人
音頭取/お囃子と車の操作の上立つ指揮者2人(辻を曲がる時のみ4人)
屋根方/鉾の屋上で真木の動揺を加減し電線等の障害を調整する役4人
- 山** 重量/1.2トン~1.6トン
昇方/14人~24人

◆ 交通

■ 14日・15日・16日 地下鉄四条駅 発車時刻表

14日~16日は地下鉄臨時増発(通常ダイヤも一部変更しています。)

| 行先時刻 | 国際会館方面行き | | | | | | | | | | 竹田行き [●は新田辺行き] | | | | | | | | | |
|------|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----------------|----|----|----|----|----|----|----|--|--|
| 21 | 1 | 7 | 15 | 22 | 30 | 36 | 42 | 48 | 54 | 3 | 10 | 18 | 25 | 33 | 40 | 48 | 55 | | | |
| 22 | 0 | 7 | 14 | 22 | 29 | 37 | 44 | 52 | 59 | 1 | 8 | 14 | 21 | 28 | 35 | 43 | 49 | 56 | | |
| 23 | 7 | 17 | 26 | 48 | 4 | 12 | 20 | 27 | 36 | 44 | 53 | | | | | | | | | |
| 24 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

■ 地下鉄最終連絡表(四条駅発)

| | |
|----------------------|---------------------|
| [浜大津方面 23:26] | [竹田・新田辺方面 0:02] |
| [国際会館・醍醐・二条方面 23:48] | ※新田辺方面は竹田駅で近鉄線に乗り換え |

※浜大津・醍醐・二条方面は烏丸御池駅で東西線に乗り換え

■ 14日・15日・16日 私鉄最終発車時刻表

| 大阪・梅田方面行 | | | | | |
|-----------|-------|------------|---------|-----------|---|
| 河原町駅発 | 23:30 | ウ | 烏丸駅発 | 23:32 | ウ |
| | 24:46 | カ | 24:48 | カ | |
| | | ウ印=梅田行 | カ印=桂行 | | |
| 大阪・淀屋橋方面行 | | | | 三条・出町柳方面行 | |
| 四条駅発 | 23:31 | キ | | 24:36 | デ |
| | 23:48 | ネ | | 24:46 | サ |
| | 24:06 | ク | | | |
| | 24:24 | ヨ | | | |
| | | キ印=淀屋橋行 急行 | ネ=寝屋川市行 | ク印=樟葉行 | |
| | | ヨ印=淀行 | デ印=出町柳行 | サ印=三条行 | |

◆ お知らせ・お願い

- 7月14日から16日の宵山は大変混雑しますので、次のことに注意して下さい。
 - ◎ 特に、山鉾周辺は、大変混雑しますので押し合わず、順序よく通行して下さい。
 - ◎ 地下道の出入りについては、現場警察官の指示に従って通行して下さい。
 - ◎ 持物に十分気をつけて下さい。
 - ◎ お子さんやお年寄りのご同伴にあたっては、はぐれたりすることのないよう気をつけて下さい。
- 祇園祭から危険・迷惑な暴走族をみんなで追放しましょう。
- 四条通をはじめその他の道路(歩道を含め)に、自転車・バイク・物品等を置かないで下さい。
- 観覧は、マイカーをやめて電車、バス、タクシーをご利用下さい。7月14日~16日の間、地下鉄烏丸線、東西線が増発されます。15・16日は京阪電車、阪急電車も増発されます。
- 路線バスは、交通規制が行われる時間帯は他の道路へ迂回しますので、バス停留所に掲示する告示板で確認するか現場の係員にお尋ね下さい。
- 7月17日は京都駅前(A2のりば)~四条河原町間に臨時市バスを運転します。